

青森市匠の職人（令和元年度受賞）

かななり
神成

たくひろ
拓洋（建築とび工）

当たり前前のごことを当たり前前に



問い合わせ先 株式会社 渋谷組
〒030-0111
青森市大字荒川字柴田 99 番地 1
TEL 017-739-7036



市役所新庁舎の建設にも携わっていました。

取材レポート
ものづくりが好きだった神成さんは、まだ10代の頃に、親戚が経営する埼玉県の工務店で建築とび工としてのキャリアをスタートさせました。
とび工は高所での作業が多く、一つのミスや怠慢が大きな事故に繋がってしまうため、決められた作業手順を正確に実施することが求められるとのこと。従って、作業手順を覚えるまで、一定の下積み期間はどうしても必要になると言います。
神成さん自身も駆け出しの頃は見習いとして、当時の親方から厳しく指導を受けたそうですが、そのときの経験は今でも役に立っていると話します。
確かに、時には危険を伴うとび工の現場ではあるものの、神成さんは「当たり前前のごことを当たり前前にできていれば決して事故は起こらない」と断言します。実際に職長として20年間勤めながら、事故による怪我人を一人も出していないとのこと。職人たちに声の掛け合いを徹底するなど、安全第一で現場を監督しています。
また、とび工は職人の中で「番初めに現場に入って足場を組み、全ての工事が終了してから一番あとに撤収して現場を離れるため、建物ができていく過程を最初から最後まで全て見る事ができる職種であり、工事完了時の達成感は素晴らしいものであると語ります。
今後の目標については、自分のこれまでの経験を次の世代へ伝えたい。」と話す一方、なかなか若手が集まってこないという課題もあるとのこと。まずは、きちんと仕事を覚え、しっかりと手順通りに行えば危険な仕事ではないこと、他にはない充実感を味わえる仕事であること」を理解してもらいたいとのことでした。

